

農業者と農業委員会をむすぶ

あきたし 農委だより 75号

秋田市農業委員会



今号の表紙 秋田市園芸振興センターの研修生が栽培している夏秋イチゴの「赤い妖精」
白い可憐な花をつけ、真っ赤な果肉と爽やかな酸味が特徴です

特集

若手農業者の挑戦 秋田市内で農業に取り組む若手農業者へのインタビュー

農作業安全へのヒント

農業委員・農地利用最適化推進委員の活動報告

農業委員会からのお知らせ

農業こども絵画コンクール作品募集

ドローン操作の注意喚起

編集後記

特集
若手農業者
の挑戦

非農家出身からの挑戦

～人と地域と
つながりながら歩む～



―若手農業者にスポットをあて、上北手地区で
営農している小泉 駿弥さんにお話を聞きました―

就農のきっかけは “食への関心”

「農業を仕事にしたい」そう
思ったのは、食に興味があった
のと、中学生の頃に農業の担い
手不足について学んだことで、
自分にも何かできることがあ
るのではないかと考え、大学は
農学部に進学。

実習やインターンシップで、
農家の方々が農作業をする姿
を間近で見て「自分も現場で
農業をやりたい」という思いが
強くなったそうです。

雇用就農で経験を 積み、独立へ

大学卒業後、秋田市園芸振
興センターで2年間の研修を
受けたのち、市内の農業経営
体に就職。

「資金や営農のノウハウなど
技術面に不安があり、いきな
りの独立はハードルが高かつ
た」と話し、雇用就農という
形を選びました。

農業経営体に勤務しなが

「非農家出身だけど農業がしたい」

そんな思いを胸に農業に飛び込んだ若者がいます

ら、実践での農業経験を積む
と同時に、就農地の確保に向
けて農地を探しました。

運良く市内の農業法人とご
縁があり、いろいろな支援をし
てもらったことで独立が実現
しました。

農地や農業機械もお借りす
ることができ、初期コストを抑
えることが可能となりました。

現在の営農について

営農面積は約40アール。ハウ
スではキュウリ、ナス、リーフレ
タスなど、露地では、ニンニク、
里芋、紫蘇、ネギ、人参、ケイ
トウ、マイクロアスターを栽培。
様々な品種に挑戦し、どの品
種に絞り栽培するかを見極め
るため、多品目の野菜や花を
栽培しているそうです。

通常は1人で作業していま
すが、繁忙期は家族や農業法
人の方から手伝ってもらって乗
り切っているそうです。今後
は、営農ボランティアの導入も
検討しているそうです。

毎日が農業。無理せず、柔軟に

基本的な一日のスケジュールは、朝5時半起床、6時半から作業開始。日中は農作業に取り組み、夕方6時頃に作業終了。夜は10時に就寝という生活です。

「天候や体調に合わせて柔軟に対応し、無理はしないように心がけています」と話します。



「農地探しが一番のハードル。」

でも、だからこそ出会えた人たちがいる」

苦労は農地探し。

「ご縁」が独立の鍵

非農家出身のため、最初は農地の確保に苦労したと言います。始めは実家の周辺で農地を探していましたが、なかなか見つからず、行政機関に相談したり、人づてに農地を探しました。その中で、ある農業法人の方を紹介していただき、最終的に、その農業法人の支援で農地を借りることができたことが、独立の決め手となりました。「農地が見つからなければ、雇用就農を続

けていたと思います」と振り返ります。

結果的に、その農業法人の近くで営農ができたことで、繁忙期に手伝ってもらったり、また、その農業法人が忙しい時には、手伝いに行ったりという関係を築くことができました。

「独立するにあたり、いろいろな方に支援をしてもらい、たくさんのご縁があって、今、農業ができています」と笑顔で経緯を語ってくれました。

自分の進んだ道が 誰かの背中を押すかも しれない

現在は独立2年目。「自分自身がリスクをとるタイプではないので、無理のない経営を心がけています」と話してくれました。

就農しやすい農業のスタイルを確立することが、これから農業を目指す人にとって、ひとつの参考になればとも語ってくれました。

また、「地域に貢献できる農家になりたい」とも話し、どのように地域に貢献できるかを常に考えながら営農に取り組んでいます。

「将来は人を雇える 農業経営へ」

自身が雇用就農の中で多くを学び支えられた経験があり、今度はそれを「バトン」として次につなぎたい」と話し、生産・出荷体制を安定させ、就農希望者の選択肢のひとつとなれるような農業経営を目指しています。

自分がいろいろな方から支援をしてもらったことを自分も次に返し

ていきたいと、これからについての思いを話してくれました。

農業の魅力とは？

「大変なこともあるけれど、土や植物に触れるのが好きで、農作業は楽しい」と笑顔で話します。

「食べ物を作れるという仕事に尊敬があり、農業をする前から、農家の方への尊敬がありました。スーパーに並ぶ野菜の裏には、必ず作る人がいる。今、その仕事をできていることが嬉しい」と、農業に対する誇りと感謝の気持ちを語ってくれました。



こいずみ しゅんや
小泉 駿弥 さん

秋田市出身。上北手にある約40アールの農地で野菜栽培に取り組む若手農業者

プロフィール

考えたい 業安全



STOP! 農作業事故

どう防ぐ？

農作業事故と安全へのヒント

「農作業中にヒヤリとしたこと、ありませんか？」

そう問いかけたアンケートに、農業委員・農地利用最適化推

進委員の方々よりご協力をいただき、回答をいただきました。

そのうち約6割にあたる方が、「過去に事故やヒヤリハットの

経験がある」と答えています。

こんな場面でヒヤリ！

軽トラで…

- ・農道を運転中、脱輪した
- ・高低差がある農道で落ちそうに

トラクターで、田植機で…

- ・勾配がある場所で、作業機を上げた状態で進んだら前輪が浮いた
- ・違う機種を運転する際、操作方法が違うため急発進し落ちそうに
- ・ブレーキの踏み外し。代かきの後、長靴についた泥で滑った
- ・疲れてウトウト
- ・畦を乗り越える時、傾いて横転しそうに

コンバインで…

- ・グレタンク満杯状態で、ほ場から農道へ移動する際、スピードの出し過ぎで横転

除草作業で…

- ・草刈り中、雨続きで畦畔の補強ができず、ぬかるみに気づかないまま自走草刈機と共に落ちそうに人は無事だったが機械が重傷だった

- ・機械から落ちた
- ・一人で作業中、脚立から落ちた

農作業事故を防ぐために

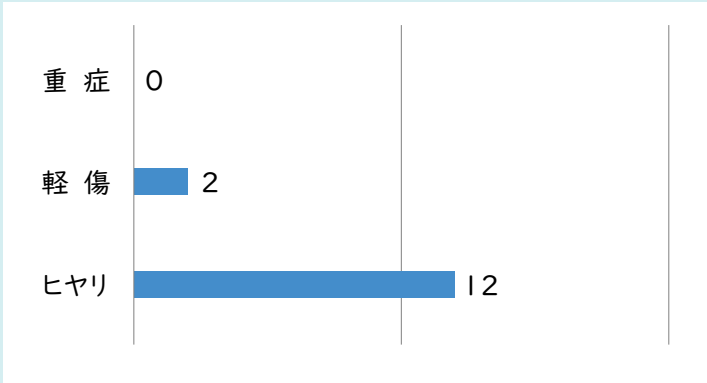
農業における農作業事故は、建設業などの他の産業に比べても高い割合にあると言われています。

農業は他産業と比べ安全に関する情報が共有しにくく、危険は他人ごとと思っ

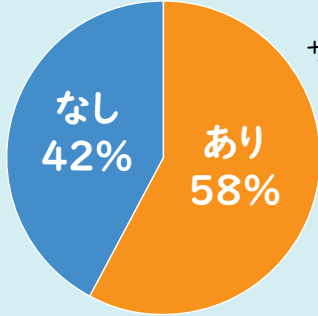
てしまい事故につながるケースもあります。農作業安全のために、事故を他人ごととせず

に、事故を他人ごととせず、自分に起こりうることに意識すること、農作業事故は防ぐことができます。

過去の事故の内容は



過去に農作業中の事故やヒヤリハット*があった



*ヒヤリハット:事故につながる可能性があったが、運良く(すんでのところで)事故に至らなかった状態

栗原市より視察受入れ

▶ 佐々木会長より挨拶



6月3日(火)宮城県栗原市農業委員会より7名の方が、視察に訪れました。

区域部会の詳細や区域部会活動を通じた地域の課題解決や推進委員と総会の関わりについて、意見を交換しました。

視察研修レポート

農地利用最適化推進委員

▶ 横手市のホップ栽培を視察



6月24日(火)農地利用最適化推進委員視察研修のため、横手市・美郷町を訪問しました。

地元特産品と地域農業の活性化の取組を学ぶ貴重な研修となりました。

視察研修レポート

農業委員

▶ 三川町の乾田直播を視察



7月8日(火)からの2日間、農業委員視察研修のため、山形県三川町と金山町を訪問しました。

乾田直播や特産の作物栽培の取組などを学びました。



「自分ごと」として 農 作

どう防ぐ?

- ・よそ見をしないで運転に集中
- ・急がず、しっかり確認をする

- ・周囲の確認、臨時作業者へ注意喚起
- ・事前点検と安全確認の徹底

- ・ゆとりをもって計画的に作業する
- ・睡眠を十分にとって体調を管理する

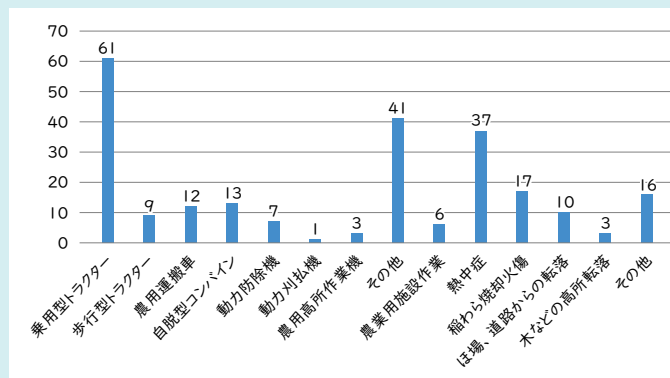
- ・機械を運転する際は、長靴の泥をよく流す
- ・作業が予定どおり進まなくても焦らない

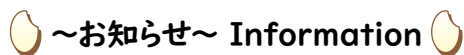
- ・一人の時は、おおよその作業時間や場所を家族に伝える

運転操作ミスや傾斜地・狭い道での不安定な作業など、機械操作と地形条件が重なり事故に繋がりがねない事例が多く見られました。

今回、農業委員・農地利用最適化推進委員の方々より寄せられた事例を意識すること、で、「自分ごと」と捉え、ご自分や家族、仲間を事故から守ることにつなげていきましょう。

農作業死亡事故調査 令和5年236人(農水省)





～お知らせ～ Information

こんなときは農業委員会に届出が必要です

- ☐ **農地の相続** 相続などで、農地の権利を取得した場合は、農地のある市町村の農業委員会へ届出が必要です。法務局での相続登記が完了しましたら、届け出してください。
- ☐ **農地に格納庫（農業用）などを建てたい** 農地に、農業用施設を建てる場合、原則、転用の申請等が必要です。また、地域計画エリア内で認定農業者が建てる場合、条件を満たすと申出書を提出することで、転用の許可が不要となります。詳しくはお問合せください。
- ☐ **田んぼを畑に** 田んぼとして利用していた農地を畑として利用するため土などを運び入れ、農地を改良する場合は、事前に届け出してください。

令和7年度 農業子ども絵画コンクール「作品募集!」



R6最優秀賞

「うんとこしょ、どっこいしょ」

◆テーマ

農業(田植えや稲刈りなど)

◆締め切り

10月31日(金)まで通学している小学校へ

◆応募資格

秋田市の小学生であること

◆作品規定

絵のサイズはB3(4ツ切サイズ)

画材は水彩絵具、クレヨンなど自由

※絵に限りません

◆表彰

最優秀賞と優秀賞の各1点と特別賞を選出し、賞状と副賞を贈呈します

◆その他

応募いただいた作品は、表彰式終了後に学校単位でまとめてお返しします

応募は1人1作品まで。未発表のものに限ります

受賞者氏名は広報あきたや市のホームページ等に掲載されます

問 秋田市農業委員会事務局



018-888-5796



広報ID:1021023

推進委員異動のお知らせ

第3区域(主に上北手地区から南ヶ丘地区)の推進委員に異動がありました。
 新 任 高橋 義隆 (在職:令和7年4月～)

編集後記

今回、特集した農作業安全のアンケートから、事故を未然に防ぐために日頃の意識と環境整備の両面から対策を進めていることが伝わってきました。

秋の農作業が本格化するこの時期、いただいた体験談が安全意識の向上につながれば幸いです。

農委だよりの編集にあたり、ご協力いただきました皆さまに厚くお礼申し上げます。(事務局 鈴木)

注意! ドローン操作について

ドローンによる農薬等の空中散布は、農作業の効率化に期待が高まる一方、事故も増加しています。操縦者や付近にいた人がケガをしたケースや電線等への接触損害も発生しています。

しっかりと安全確認をしましょう。

ドローン空中散布手続・留意事項(農水省)



お申込み、
お問合せは
JAまたは
農業委員会へ

3つの要件を満たせばどなたでも加入できます!

- 60歳未満
- 国民年金1号被保険者
- 年間60日以上農業に従事



農家のための情報誌
 営農に欠かせない
 情報をお届け

- 発行日:毎週金曜日
 - 購読料:700円/1か月(送料、税込み)
- 購読のお申込みは
 秋田市農業委員会事務局まで

